

省力設備の導入で業務を整理 人員は接客に専念させる



最新の機器はデータ管理もできるので経営の効率化にも役立つという浅野社長。現金管理を機械に集約することでスタッフは接客に集中できる。

健康薬湯プランタン(株式会社ライフサイエンス研究所)

地域で手広く事業を行っていた経営者が、高齢化社会を迎える地元住民の集会的な役割を担える施設として開業した入浴施設。低料金で一日中滞在できるなど“居心地のいい場所”づくりを心がけている。料金の授受は券売機で行うことで、従業員も高齢者中心のお客との対応に集中する。

健康薬湯プランタン
(株式会社ライフサイエンス研究所)

〒011-0931 秋田市将軍野東三丁目6-15
Tel. & Fax.018-847-4126

高齢化社会を見据えた事業構想

秋田市将軍野にある健康薬湯「プランタン」は、土崎地区で幅広く事業を営んでいた先代社長が平成8年に開業した入浴施設である。

折から少子高齢化が叫ばれていた時期でもあり、いわゆる「スーパー銭湯」の形態をベースにしながら、地域の高齢者が気軽に利用できて健康増進にも役立つ施設として、さまざまな効果や効果が期待できる漢方の薬剤による薬湯を目玉にして、営業を行っている。

現在の浅野昌幸社長は創業時から従業員として働いていたが、平成20年に先代社長が亡くなったのを受けて翌年から経営を引き継いだ。

省力設備導入で効率のいい業務

プランタンのような施設では、入湯料や飲食代などで頻繁に繰り返される少額現金の授受を人手で行うと、業務が煩雑になり結果的には人件費へのしわ寄せも出かねない。特に高齢者の利用が多いこのような施設では、人員は可能な限りお客への対応にしぼったきめ細かい業務に専念したいという事情もある。

現金管理を機械に任せればスタッフは接客業務に集中できるため当初から券売機を使っていたが、その機械が老朽化して交換部品の手配も困難になってきた。そこで今年、あきた企業活性化センターの設備貸与制度を利用して新しい券売機を導入することにした。センターが機材を購入(所有)し、センターからリースを受けるという形態だ。



地域密着型がお客の支持を得る

昨年は震災の影響でどこの入浴施設も苦戦したが、プランタンはむしろ利用者が増えた。近くに陸上自衛隊駐屯地があり、災害派遣で県外から秋田に来ていた多くの隊員が利用したためだ。

「それは例外的なケースでしたが、地域の高齢者の皆さんに繰り返し利用してもらいたいのので、60歳以上の方が割引になるような料金設定もしています。以前は時間制の料金

設備貸与制度を利用して導入した食券券売機。(写真上) 微細な泡のマッサージ効果で全身の血行を促すジェットバス。(写真中) 入湯料のみで利用できる休憩・飲食コーナー。宴会も可能。(写真下)

設定もありましたが、時間を気にしないで利用してもらうために時間制はやめました」(浅野社長)

地域の高齢者に愛されているプランタンは、創業以来現在まで比較的安定した事業内容で推移している。



美肌薬湯と漢方薬湯の浴槽。美肌薬湯の薬剤は日替わり。